台風１５号対策について

平成２３年９月２０日
営　農　支　援　課

Ⅰ　ハウス等施設全般の対策

施設については別添の「ハウス等施設の台風対策」を参照。

Ⅱ　作物別の対策

１　普通作物

【普通期水稲（登熟期）】

（１）事前対策
①深水管理にして倒伏被害の軽減を図る。
※ただし、棚田等で深水により畦畔破壊のおそれのあるところでは注意する。
②冠水しやすい水田では溝切りや排水溝の整備を行う。

（２）事後対策
①冠水した水田では、速やかに排水する。
②台風通過後も乾燥風により、稲株が脱水症状となることがあるので、しばらくは湛水状態を保つ。
③倒伏した稲はできるだけ引き起こすなどして登熟向上に努める。
④収穫機械に支障が生じないよう、水田内に飛散したゴミ等は除去する。

【大豆（莢肥大期】

（１）事前対策
①冠水しないよう溝切りや排水溝の整備を行う。
②折損や倒伏被害の軽減を図るため、土寄せをする。

（２）事後対策
①冠水したところでは速やかに排水し、侵蝕された畦は早めに土寄せする。
②ハスモンヨトウなど害虫発生の観察に努め防除を行う。

【そば（生育期】

（１）事前対策
①冠水しないよう溝切りや排水溝の整備を行う。

（２）事後対策
①冠水したところでは速やかに排水する。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

★農作業安全

例年、水田管理等のため増水した河川や水路に近づき、転落等の重大な事故が発生しているので、水位が下がるなど安全な状態になるまで近づかない。

２　野菜

【栽培中の施設野菜全般】

（１）事前対策

①ハウスバンドにゆるみがないよう、しっかりビニルを押さえる。
②ビニルの上から防風ネット等を被覆し、ハウスバンド等で固定すると強度が増す。
③ハウス妻部には筋かいを入れて補強する。
④台風の進路に注意し、直撃する可能性があり、ハウス倒壊の危険がある場合（２５ｍ以上の風）は，押さえバンドを切ってビニルを除去する。
⑤ハウスの周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。
⑥防風ネットの設置してあるほ場においては、根石や支線の点検を行い風雨により強度が低下しないよう対策を講じる。
⑦ハウス周囲を点検し、強風で飛びそうなものは片付けるとともに、燃料タンク等の付帯設備がしっかり固定されているかを確認する。

（２）事後対策

①防風ネット・寒冷紗等は直ちに除去し、通風を良くする。
②湛水した場合速やかに排水を行う。
③傷害果や幼果は摘果して，草勢の回復を図る。
④速効性窒素肥料を成分で１０ａ当り２～３ｋｇ施す。
⑤草勢の低下や茎葉が損傷すると病害が発生しやすいので、登録農薬を散布する。

【陽熱消毒中のハウス】

（１）事前対策

①台風の進路に注意し、直撃する可能性があり、ハウス倒壊の危険がある場合（２５ｍ以上の風）は、消毒中ハウスの押さえバンドを切ってビニルを除去する。
②ハウス内のほ場を覆っているマルチについては、風ではがれないようにするために、土を詰めた肥料袋等で重しをする。
③ほ場内に周辺から流水が侵入しないように排水溝を整備する。

（２）事後対策

①湛水した場合速やかに排水を行う。
②陽熱消毒の効果が不十分な場合は登録農薬による土壌消毒を併用する。

【いちご苗】

（１）事前対策

①ほ場周囲の排水溝を整備する。
②ハウス倒壊の可能性が高い場合には、育苗ハウスのビニルを除去する。
③採苗が始まっている場合は、風で飛ばされないよう寒冷紗・防風ネット等を苗の上に直接かけて、風で飛ばされないよう固定する。

（２）事後対策

①倉庫等に移動した場合は、速やかに育苗ハウスにもどす。
②寒冷紗、防風ネットなど苗の上にかけていた被覆資材を直ちに除去し、通風を良くする。
③苗の冠部が土に埋まったものは、速やかに土を除去する。

④雨風に当たると炭そ病等の病苗が増えるので、病株は早めに除去し、登録農薬を散布する。

【露地野菜類全般】

（１）事前対策

①ほ場の周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。

（２）事後対策

①湛水した場合速やかに排水を行う。浸蝕された畦は早めに土寄せ等を行う。

②茎葉の損傷部分や草勢の低下により病気が発生しやすいので、登録農薬を散布する。

【露地きゅうり、ピーマン、にがうり、オクラ】

（１）事前対策

①栽培ほ場周辺に防風ネットを張る。

②ほ場の周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。

（２）事後対策

①湛水した場合速やかに排水を行う。浸蝕された畦は早めに土寄せ等を行う。

②損傷の激しいものは除去し、傷害果や幼果は早めに摘果、倒れた枝は引き起こして誘因し、受光態勢を整え、草勢の回復を図る。

③速効性窒素肥料を成分で１０ａ当り２～３ｋｇ施す。

④茎葉の損傷部分や草勢の低下により病気が発生しやすいので、登録農薬を散布する。

３　果樹

【全果樹共通】

（１）事前対策

①防風林・排水溝の整備を行う。防風林は、ある程度隙間がある方が効果が高いので、整備を行う。また防風ネットの根石や支線の点検を行い強い雨で強度が低下しないよう対策を講じる。

※防風ネットは高さ３ｍ以上必要。

②主枝・亜主枝の分岐点が裂けるおそれのある樹では、縄で８の字型に幾重にも縛っておく。

③高接ぎ更新を実施した園は、伸長した枝を支柱で固定し、折損を防止する。

④園内の草刈・敷草を実施し、大雨による土壌浸食を防止する。

（２）事後対策

①枝折れ・枝裂けした所は切り取り・削り直しをして、大きな傷口には癒合剤を塗る。

②倒伏した幼木・若木は直ちに起こし、土寄せ、根締めをして支柱で固定する。

③強風により根際にすり鉢状の穴ができているものは、早めに土寄せをして

根を保護する。また、敷草が飛散したものは、元通り敷き込み根の乾燥を防ぐ。

④落葉のひどいものには、日焼け防止のため、幹に保護剤を塗る。

【カンキツ】

（１）事前対策

①幼木・若木は支柱を補強し枝葉をまとめて結束する。

②風ズレによる枝・葉・果実へのかいよう病の発生が予想されるので、銅水和剤等を散布する。

（２）事後対策

①結束枝は、早めに解いて蒸れを防ぐ。

②カメムシの飛来が予想される場合は、収穫前日数に注意しながら殺虫剤の散布を行う。

③塩害が懸念される場合は、６時間以内に２～３ｔ／１０ａ以上の水で塩を洗い流す。

④潮風害などによって落葉が発生した場合は、程度に応じて摘果するが、果実ばかりが見える状態の場合には、全摘果を行う。また、枯れ枝も整理する。

⑤ 収穫直前及び収穫期間中の場合は、褐色腐敗病を対象とした薬剤散布を行う。

【なし・かき・クリ等】

（１）事前対策

①倒伏・幹折れの予想される木は三脚支柱を組む。なし、ぶどうの棚、なしの多目的防災網及びわい化栽培においては、トレリス線、捨て線、くい通し線、周囲線・アンカー及び網の点検を行い、場合によっては補強を行う。

②なしは棚線への枝の結付けをよくして、落果防止を図る。かきやくりの若木は支柱を補強して枝ゆれによる落果並びに枝折れを防ぐ。

（２）事後対策

①主枝・亜主枝等の太枝が裂けたものでも、毬果・果実の成熟まで枯死しないと見込める枝は、傷口を石灰硫黄合剤で消毒し、収穫後切り離す。

②主幹部が折れたものは、萌芽した中の２～３本を育成する。台木から萌芽した場合は春の切接ぎの準備を行う。

③病気の発生に注意し、防除基準に準じて襲来後直ちに防除を実施する。

【マンゴービニル除去園】
（１）事前対策
①新葉のかいよう病の発生が懸念されるので、襲来前に銅水和剤の散布を行う。
②防風対策として、ネットや寒冷紗等の展張を行う。

４　花き

【露地花き全般】
（１）事前対策
①滞水しないように排水対策を充分に行う。
②マルチは土寄せを行なうか、市販の止め具等によりしっかり固定し、風による剥がれを防ぐ。
③生育に応じて、支柱・ネット等で誘引・固定し、茎葉の損傷を防ぐ。
④ほ場周辺の片づけを行ない、飛来物による作物の被害を防ぐ。
（２）事後対策
①浸水・冠水した場合は、速やかに排水を行う。
②必要に応じて殺菌剤、液肥の葉面散布、追肥を行う。

【施設・雨よけ花き全般】
（１）事前対策
①排水溝の整備、防風ネットの設置を行う。
②草丈がある程度伸びたものは、支柱を補強し、誘引ネット等の張りを強化して倒伏を防止する。
③ハウス内のかん水チューブやスプリンクラー・ミスト施設は風で飛ばないように収納あるいは固定する。
（２）事後対策
①湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。マルチ栽培の場合はマルチをはがして畦を乾燥させる。
②台風後の高温・強日射の被害を防ぐために寒冷紗等で被覆を行う。
③茎・葉の損傷が発生した場合は、薬剤防除・液肥の葉面散布等を行う。
④電照や夜冷育苗等、電気機器を使用する品目では、機器が正常に稼働するか点検・確認を実施する。

【スイートピー】
（１）事前対策
①ネットへの誘引の前であれば、ハウスの被覆を剥ぐことを想定し、防風ネットでトンネル被覆を行う。
（２）事後対策
①降雨等により畦の表面が硬く締まった場合は、浅く中耕し、通気性・透水性を良くする。
②欠株が多い場合は、わき芽を利用し複数本に仕立てるか、補植を行う。

【コチョウラン他、冷房ハウス等】
（１）事前対策
①長期停電に備え、自家発電等を用意するとともに、事前に試運転を行う。
②デルフィニウム等の夜冷育苗は、苗を夜冷庫内に収納する。

③外部遮光、被覆等は除去するかハウス上部に巻き上げて固定する。

（２）事後対策

①落雷等により停電した場合は冷房設定を再度確認する。

②夜冷育苗の場合は、台風通過後、すみやかに遮光資材等の被覆を元に戻し、苗を夜冷庫から外に出す。
その他は施設・雨よけ花き全般に準ずる。

【花木等】

（１）事前対策

①幼木、若木は倒れる可能性があるので、支柱で固定する。

（２）事後対策

①浸水・冠水した場合は、速やかに排水を行う。

②倒れた木、傾いた木は根を傷めないように段階的に起こし、土寄せ、根締めをして支柱で固定する。

③ほ場に土砂が流入した場合、根の活力が低下して枯死する場合があるので、速やかに株の周りの土砂を取り除く。

５　特用作物

【茶】

（１）事前対策

①幼木園では株元やマルチ資材への土寄せを行い、株の揺れやマルチのバタツキを防止する。

②幼木園、育苗床では防風ネットを設置する。（防風用のソルゴー間作（５～７月播種）が有効。）

③敷草をして土壌の浸蝕防止と明渠設置による浸・冠水防止と排水対策を実施する。

④茶工場（煙突、屋根、雨とい、窓等）の点検・整備・補強を実施する。

（２）事後対策

①風雨による倒伏や地際の損傷を受けた幼木や挿し木では、株元や剥げたマルチ資材への土寄せ、添え木、補修を実施する。枯死株は植え替え（翌春３～４月）を行う。

②降雨がなく海からの風で塩分が付着したとみられる茶園は、塩分付着８時間以内の早めの散水（５mm以上）による塩分除去を行う。

③強風により葉の損傷を受けた茶園では薬剤散布を実施する。

④滞水・浸蝕部分の速やかな排水処理と改修・整備を行う。

⑤茶工場の被害確認、点検・整備を実施する。

６　畜産

【畜産全般】

（１）事前対策

①畜舎の防風対策を十分に行い、特に開閉部はしっかりと固定するなど、破損に注意する。

②特に山間部では、道路の通行止めが予想されるため、飼料（配合飼料、青刈り、サイレージ含）は、余裕をもって準備する。

③停電が予想されるので、発電機の手配とともに、試運転を事前に行う。

④断水の可能性がある場合には、最小限の飲水量を給水タンク等で確保する。

⑤家畜ふん尿等が、流出しないよう、必要な対策を行う。

（２）事後対策

①浸水した畜舎は、台風通過後に速やかに消毒する。

【養豚・養鶏】

（１）事前対策

①鶏舎内への雨の打ちこみを避け、床に湿り防止を行う。

（２）事後対策

①台風通過後は、急激に気温が上昇することがあるので、肥育豚及び出荷前のブロイラーでは、畜舎を開放するなど換気に努める。

【飼料作物】

①発芽間もない飼料作物は、長期間の冠水で湿害が予想されるので、事前に排水対策を講じ、冠水した場合は速やかに排水を行う。

②刈取り適期のトウモロコシは、早めに収穫しサイレージ等に調整する。

③収穫間近のソルガムは、倒伏した場合、接地点から発芽し、収穫時に土が混入しやすくなるので、すみやかに収穫する。

別添　「ハウス等施設の台風対策」

営農支援課

【事前対策】

①防風ネットの設置
防風ネットはあらゆる強風対策の基本であり、必ず設置する。

②被覆資材の補強
被覆資材がはがれる被害は、屋根の両端の破れが引き金となる。
図１の　　部分をネットで保護する。

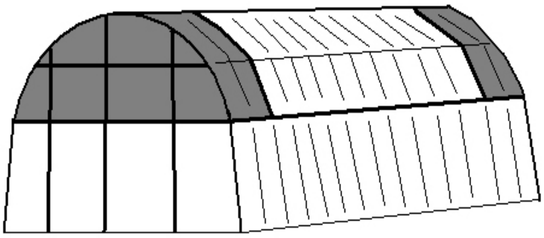

図１　被覆資材の補強

③ハウス本体の補強
ハウスビニル等にシワ・タルミがあると、耐風性は大幅に低下する。必ず確認を行う。
サイドビニル、出入り口はしっかりと閉じて固定する。
ハウスバンドの本数を増やすとともに、締め直し補強する。ハウスバンドを止める両側のヨリ鋼線や支柱を支えるラセン杭も補強する。
硬質ハウスでは天窓の補強も重要となる。ロープ等でしっかりと固定する。

④排水対策の徹底
ハウス内に雨水が流入しないように､周囲の排水溝の整備を徹底する。また、ハウスが連棟の場合、谷水を「とい」などで排水路まで導き、ハウス内に入らないようにする。

⑤自動開閉装置対策
ハウスを締め切ったあと、温度センサーによって換気部が動き出さないようにする。

⑥燃料タンク対策
台風により、広範囲が冠水しているときに、燃料タンクが倒れたり、配管の破損等により燃料 油が流出すると、農作物だけでなく施設周辺にも被害を及ぼすので、タンクの固定ボルトの増し締め、配管付近の片付けを行う。

⑦換気扇の利用
換気扇がある場合には、換気扇によってハウス内を低圧状態に保つことで、ハウスビニルの揺れを防止する。また、停電に備え非常用電源を準備する。

⑧倒壊の恐れがある場合
ハウス倒壊の危険がある場合には、押さえバンドを切ってビニールを除去し、ハウスの倒壊 を防ぐ。
また、雨中の作業では、飛来物に注意し、転落事故にも気を付ける。

【事後対策】

通過後一気に晴れてしまうことが多いので、換気対策を優先し、換気部の補強を解き、自動開閉装置の設定を元に戻す。
ビニルが破損した場合には、速やかに補修する。
滞水した場合には、すみやかに排水を行なう。